

佐賀新聞 2011(平成23)年9月4日(土) 子ども佐賀新聞



銅造龍文花瓶時絵波文花台 銘「秀齋19」20世紀 県立美術館蔵

県立美術館

いきもの
いま
むかし

夏休み子どもミュージアムへの招待

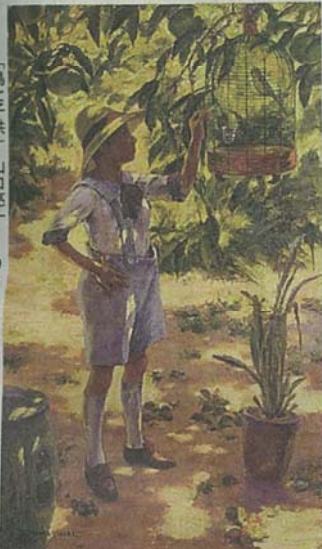
④美術の中の
いきものたち

寄り添い 見つめ 表現

私たち人類—人間は生まれた時から、たくさんの「いきもの」たちとともに生きています。でも考えてみると、地球上のいきものほとんどが、人類よりも古いのちの歴史を持ち、地球規模で見れば、人類は地球上のいきもの一つの種でしかありません。

▶3つのタイプ

「いきもの いま・むかし」展の美術編では、主に動物、魚、虫などの「いきもの」たちのすがたが表現された絵や彫刻、およ



「鳥の子供」山口亮一 1907(大正10年) 県立美術館蔵

親しみ、尊敬、感謝の念込め

び陶磁器、金工といった工芸品など合計63点を展示しています。そのほとんどが県立博物館・美術館の收藏品なのですが、收藏品全体を調べてみたところ、「いきもの」が表現された作品は思ったより数が多く、どれを飾るかを選ぶのに大変苦労しました。古墳時代の土器から現在の絵画まで、バラエティ豊かな出品作品を見ていると、人間は本当に長いこと「いきもの」たちと寄り添い、そのすがたを見つめ、表してきたのだと、しみじみと実感します。

美術に表現されたいきものたちは、大きく分けて三つのタイプに分かれます。まずは家畜、ペットなど私たちの「ごく身近にいるいきもの」。そして象、ライオンなど、今のように動物園がなかった時代、「昔は見るのが難しかったいきもの」。さらに古代には生息していたと信じられていた龍など「想像上のいきもの」です。

▶いのちの絆

いきものたちはずっと、私たち人間の「いのち」と「くらし」を支えてきました。いきものは人間にとっての栄養源—自然の恵みであり、また農業、輸送など仕事上のパートナーでもありました。と

同時に、いきものたちは私たち人間の「こころ」も支えてきたといえるでしょう。象やライオン、そして龍などは、不思議な霊力を持ついきものとして畏れられ、尊ばれていましたし、美しい花々や鳥のさえずり、涼しげな虫の声は古来よりずっと私たちが和ませてくれています。そしてペットの愛くるしいしぐさや表情に、私たちは人間と同じく「いのちの絆」を感じます。美術の中のいきものたちのすがたには、人間のいきものたちへの親しみとともに、大いなる尊敬と感謝の念が込められているように思えるのです。

(県立博物館・美術館学芸課

野中耕介)

＝おわり

▷「いきもの いま・むかし」展は25日まで県立美術館2、3号展示室で。5～12日までと20日は休館。入場無料。